

# 校名：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校

所在地：〒921-8105 石川県金沢市1丁目1番15号 電話番号：076-226-2154

記載日：平成28年5月19日 記載者：風間 重利 記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

### 校風は「**自主自律**」

自主自律、独立自治の精神を育む本校の教育姿勢は、建学以来全く揺るぎません。運動会、開校記念祭の企画・運営もすべて生徒によって行なわれます。また、夏服が自由化されています。これは、先生と生徒の強い信頼関係が学校にあるということに他なりません。生徒一人一人が自分で考え、自分を正しく律し、自分で判断して、自分から行動できるようになる。勉強・行事を始めとする学校生活全て、学校外の活動においても自発的、積極的に行動する。この自主自律の精神こそが、綿々と受け継がれてきた金大附属高校生の遺伝子です。

## 貴校の卒業生の活躍状況について：

### 多様な分野での卒業生の活躍

#### 1 全国各地に広がる同窓生のネットワーク

本校卒業生は地元を離れて、大都市圏の大学へ進学するものが多くいます。卒業後も同期生を中心として先輩・後輩のつながりも強いため同窓会活動が活発です。地元には本部同窓会の他に地元経済界で活躍する卒業生の会も有り、関東・関西・東海地区にも支部同窓会を持ち、年間を通して高校と連絡を取り合いながら同窓会活動を盛んに行っています。本校と同窓会は太いパイプで結ばれているので、卒業生の動向は高校内ではよく知られています。

#### 2 卒業生には多数の国家官僚

伝統的に国家官僚として活躍している卒業生が多くいます。霞が関に勤務する卒業生だけの同窓会組織も存在して、その中から孫崎享氏（元外務省）や志方俊之氏（元防衛庁）、石田寛人氏（元科学技術庁事務次官）、谷公士氏（元郵政省事務次官）などが出ています。全省庁で本校卒業生は現役で活躍しています。

#### 3 多様な学問分野で研究者を輩出

卒業生には気鋭の学者が多数存在します。理系では、ヒックス粒子の存在を実験で確かめた東大チームの代表浅井祥仁氏を始めとして、分子生物学者でベルツ賞・コッホ賞を受賞し、何度もノーベル賞候補に挙がっている長田重一氏、建築史の五十嵐太郎氏などが活躍しています。文系では、宗教学の島藺進氏、メディア論の水越伸氏、マクロ経済学の福田慎一氏、近代音楽史の輪島裕介氏、源氏物語研究者の山本淳子氏らがいます。

#### 4 各回生に遍在する司法試験合格者、国政に参加する政治家も

毎年、卒業生からは複数名の司法試験合格者が出て、弁護士・検察官・裁判官・法学研究者と為って行きます。政治家になった卒業生は意外に少ないものの、国会議員では、現職参議院議員岡田直樹氏、山田修路氏などがいて国政で活躍しています。

#### 5 地元の医学界に圧倒的に多くの人材を供給

医学部に進学して、地元で医業につく卒業生が多数います。また、平成天皇の前立腺がん手術の際に執刀医を務めた北村唯一氏や元東大医学部附属病院総合研修センター長北村聖氏、ドク

ターヘリで著名な松本尚氏（日本医科大学千葉北総病院救命救急センター）などが卒業生です。

## 6 経済界でも活躍

経済界では、トヨタ自動車副社長を務めた笹津恭士氏や地元老舗旅館で常に全国有数の人気を誇る「加賀屋」の小田禎彦相談役、小田孝信会長、小田與之彦社長は本校卒業生です。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

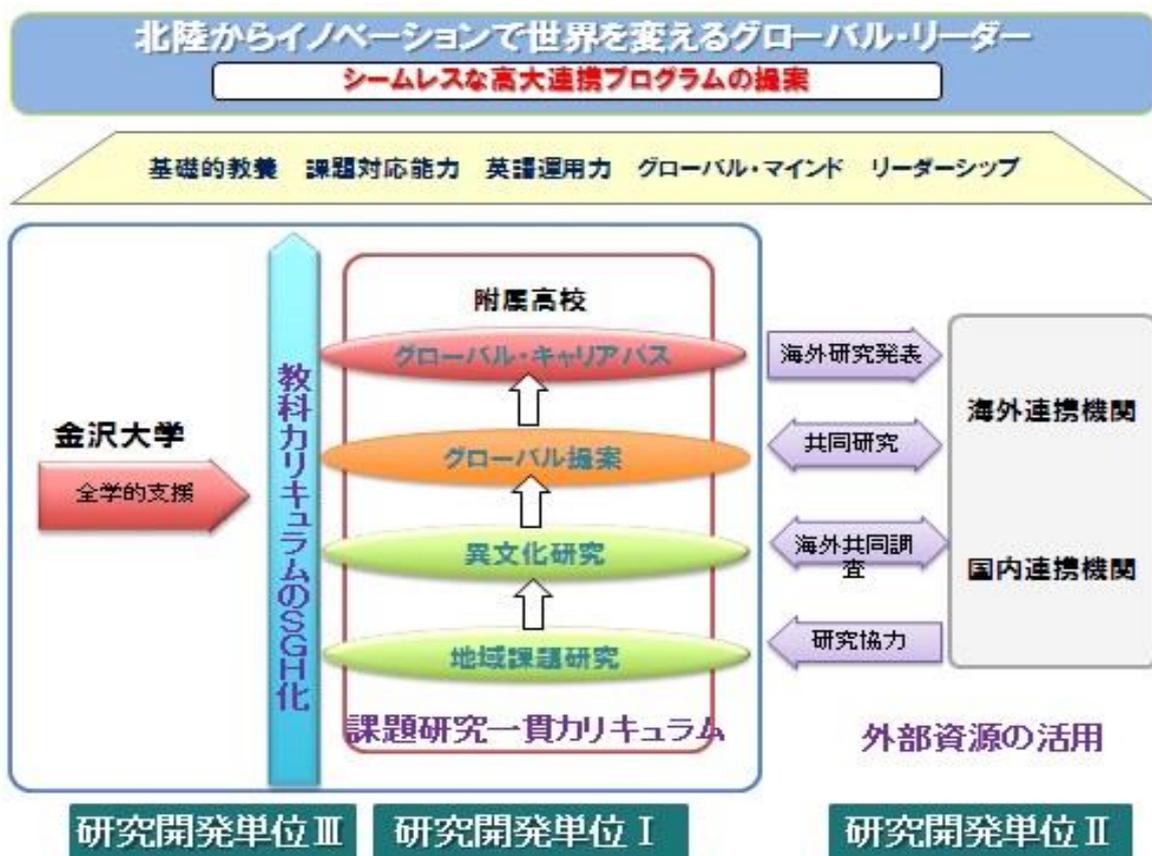
本校は、国立大学の独立法人化以後、地元県教委との間に交流協定を結び、今日まで一定の人数の公立教員を6年を限度として本校教員として迎え、公立学校勤務教員の教科教育、総合的な学習指導、進路指導などの研修の場を提供してきました。

本校勤務を経た交流教員の多くが、地元の主な公立高校（泉丘高校・小松高校・二水高校等）に戻り、各学校で中心的・指導的な役割を担って活躍していることは周知の事実です。

本校での勤務を経て公立学校に戻った交流教員と本校現職教員の間には同僚的な人間関係・信頼関係が出来ているので、何かと情報交換、資料提供などで協力関係が築かれています。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

## 金沢大学とのシームレスな高大連携に基づき、 将来の日本を背負う、世界をより良きものに変える強い意欲と能力を持つ グローバルリーダーの育成を高校時代から目指す教育



## 1 高校3年間を通した課題研究一貫カリキュラムの開発

地域課題研究(1年前半) ⇒ 異文化研究(1年後半) ⇒ グローバル提案(2年生) ⇒ グローバル・キャリアパス(3年生) と自分の生活する地元から日本、アジア、世界へと研究対

象を広げ、最後に再び自分に戻って、自身の将来の進路について考えを深めることで自らの生き方を自分で決定していく課題解決学習を3年間絶え間なく繰り返すことでスパイラル状に生徒の課題解決能力を高めていく教育研究を実施しています。

特に、平成27年度には**日本の高校教育で初めて**の試みである、「**グローバル提案**」授業を開発しました。これは2年生全生徒が各クラス14グループ14か国に分かれ、グループごとに各国の現状を徹底的に調べあげて、各国代表になりきり現在世界が直面しているグローバル課題「食糧安全保障」の解決策を模擬国際会議方式で各国入り乱れて話し合い、最終的に一つの合意にまでもっていくという授業で、学習プログラムの最後には、多様な国籍を持つ多くの金沢大学留学生の前でその議論の成果を英語で披露し、各国留学生との英語による意見交換まで実施しました。

## 2 全教科科目で教科のSGH化の取組

全教科・科目でグローバルリーダーとしての素質を高めるための教科のSGH化を強力に推進しています。特に、**地歴公民科**を中心に毎週取り組んでいる**新聞小テストの実施**はユニークです。全学年クラスに毎日地方紙2紙、中央紙3紙が届けられて生徒が新聞を学校で読めるようにし、それに基づいて毎週学校全体で小テストを実施し、その成績を個人、クラスで競う活動です。この活動によって生徒の社会・世界に対する関心を高め、基礎的教養を養っています。

**国語科**では、このような新聞小テストの活動を背景としながら、生徒自身が地域・社会・世界の課題に対しての**自己の意見をまとめ、各種新聞に投稿**することで自己の意見を社会に発信する活動に取り組んでいます。また、**英語科**では金沢大学の強力な協力の許、3週間ごとに1,2年生英語科では授業で多様な国籍を持つ留学生を交えた授業を実施。毎回、日本文化と留学生の母国の文化の違いなどをテーマに、**10人程度の留学生が生徒4.5人の小グループに入って、すべて英語で会話**を続ける**グローバルディスカッション授業**を実施し、異文化の人々と心を開いて交流する体験を重ねています。**数学科**では、国際的な数学コンテストなどへの参加も視野に入れて、中学・高校で学習する**数学の知識・技能を用いて現実社会の課題**（例えば工場などで労働生産性を考慮に入れながら労働時間と休憩時間を適切に配置するにはどうすればよいか？など）の**解決に挑戦**する授業などにも取り組んでいます。

## 3 教科課程外の活動を通じたグローバル・リーダー資質向上の取組

将来のグローバルリーダーとして、本校では必須と資質と考える自主自律の精神や誰に対しても心を開いて交流できるコミュニケーション能力を涵養するため、生徒会活動、クラブ活動、生徒の自主的な活動を前項挙げて強力にサポートする、グローバルリーダー資質向上委員会を立ち上げ、教科教育以外、授業以外の活動にも取り組んでいます。

特に、生徒会を中心とする「**スコラ**」の活動は、生徒が自主的に挑戦し、参加した校外の各種大会、コンテストなどの成果を記録し、毎年下級生にその成果記録を伝え、下級生に自主的な校外での活動に参加する場合の助言、勧告をする活動で、この活動を通して下級生が積極的に校外の各種大会やコンテストなどに積極的に挑戦する姿勢が定着してきています。

## 4 外部資源の徹底的活用

3年間を通じた課題解決学習プログラム実施の中で、地域課題研究では**金沢大学**、JAISTなどのほか地元の複数の大学、北陸財務局他多数の**地方公共団体**、多数の**民間企業・商店**、**保護者**の皆さんと連携協力を図りながら教育活動を推進しています。また、異文化研究・グローバル課題研究では、上記の皆さんの他に、**台湾師範大学**、**台湾師範大学付属高級中学校**、「プリンストン・イン・石川」で来日するアイビー・リーグ学生等の協力を得ています。「**グローバル・キャリアパス**」では多様な分野で活躍する多数の**卒業生**の協力を得て、生徒が小人数グループ

に分かれ自己の将来の設計図を描くため、卒業生に直接相談に乗って頂く「膝詰ディスカッション」を企画しています。

## 5 研究大会などを活用した広報活動

以上のような本校の特色ある教育活動は、毎年、県内・外から200人近くの高専教育関係者を集める本校主催**教育研究大会**や、年間40校を超える他校教員の本校訪問などの機会を通じて全国および地元の教育界に発信し続け、高い評価を得ています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

### 1 自主自律の精神を最も大切にしている学校

伝統的に自主自律を校風とし、公立学校には無い生徒の独立自治・自由を尊重する学校、生徒と教員が厚い信頼で結ばれている学校、生徒の学校生活を校則で厳しく律し、教員が強いリーダーシップを持って生徒を教え込んでいく形を取らない学校、**何よりも生徒・教員の自由と自主性を重んじる学校**として地域においては**特別・唯一の存在**と認められている。

### 2 地域を代表する進学校として地域の熱い期待を背負う学校

半面、地域においては**北陸地区随一の大学進学成績を誇る学校**として常に期待され、東京大学、京都大学、国公立大学医学部などへの進学成績に地域の人々の関心が集中している学校。近年、東京大学進学希望者が急激に減少、医学部進学希望者が急増する中で、東京大学進学校というより国公立大学医学部へ多数の卒業生を進学させている高校として注目されている。

### 3 地域の高校教員を養成する教育実習校・地域の現職教員の技能を磨く研修校

創立以来、本校卒業生総数とあまり変わらない高等学校教員を目指す**金沢大学全学の学生に教育実習**を施し、**北陸地域の多くの高校教師を養成**してきた組織です。また、これからは、地域の高校教員の技能を実践的に磨く教職大学院に直結する研修校として期待されています。

### 4 常に国立大学付属校として、最先端の高校教育に挑戦し続ける学校

教育研究では、近年は二十年以上にわたり高校教育における総合的学習研究のパイオニア校として実績を重ねて来ており、現在では、その伝統を基礎に置いた**SGH 教育研究校として、課題解決学習・グローバル学習における最先端校**と認められ、本校の新たな教育方法は地域の高校教育界から注目と期待を集めています。

### 5 常に熱い期待と厳しい評価に晒されている学校

本校は**地域において常に特別な存在**であることを求められ、そうであることを義務づけられた学校として、**常に地域から厳しい評価**に晒され続けている学校です。

本校の存在意義

**常に金沢大学付属校として金沢大学全体と良好な連携・協力を維持しつつ**

- 1 日本の普通科高等学校の理想的なモデルとなる。
- 2 高等学校教員の養成校、現職高校教員の研修校として理想的なモデルとなる。
- 3 常に最先端の高校教育研究に挑戦し、日本の高校教育の最前線を開拓していく。